

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳改訂第3版】

Ⅱテモ 4:1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思って、私はおごそかに命じます。

4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

4:3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、

4:4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

4:5 しかし、あなたは、どのような場合にも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。

4:6 私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました。

4:7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

4:8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

2Ti 4:1 I charge you therefore before God and the Lord Jesus Christ, who will judge the living and the dead at His appearing and His kingdom:

4:2 Preach the word! Be ready in season and out of season. Convince, rebuke, exhort, with all longsuffering and teaching.

4:3 For the time will come when they will not endure sound doctrine, but according to their own desires, because they have itching ears, they will heap up for themselves teachers;

4:4 and they will turn their ears away from the truth, and be turned aside to fables.

4:5 But you be watchful in all things, endure afflictions, do the work of an evangelist, fulfill your ministry.

4:6 For I am already being poured out as a drink offering, and the time of my departure is at hand.

4:7 I have fought the good fight, I have finished the race, I have kept the faith.

4:8 Finally, there is laid up for me the crown of righteousness, which the Lord, the righteous Judge, will give to me on that Day, and not to me only but also to all who have loved His appearing.

聖書直訳 Ⅱテモテ4:1~2

神と、生者と死者とをやがて裁かれる主イエス基督との前で、その顕現とその王国にかけて、私は誓って宣告する。

御言葉を布達せよ。好機も悪機も切迫している。

譴責せよ。叱責せよ。召喚せよ。全く不屈にかつ教育的に。

「終末的現在を生きる。」Ⅱテモテ4章1～2節

千葉福音キリスト教会創立37年、おめでとうございます。

2021年の創立記念日に相応しく、終末期の教会として必要な信仰を確認し、主から委ねられた使命を全うする道を探しましょう。

I 基督の裁き

パウロは、基督を「生者と死者とをやがて裁かれる」と特定し、基督の未来の重大な職務に言及。後の使徒信条で告白されるように、終末的観点の手紙です。この「生者と死者」とは何か？ 地上の有限の次元で考えると失念。永遠の次元で考え、永遠の生者と永遠の死者なのです。

「基督者は裁きを受けない」とは半分正しく、半分誤り。日本語「裁き」には、「刑罰」と「審判」という二つの意味。基督者が「受けない裁き」とは「刑罰」で、基督者も「審判」は受けなければなりません。審判がなければ、「天国」か「地獄」も定まりません。

「最後の審判」では、全ての者が、その行いに応じて裁きを受けることが定められています。行いの大小を問わず、善であれ悪であれ、一人一人について、その生涯になした一切の行為について。誰もが不平等にならないためです。とかく地上では、「正直者は損」「悪者が大手を振舞う」ですが、基督の審判では一切適切が完全に精算されます。

水一杯忘れられることなく、隠れた行為も明るみに出され、嘘も簡単に見抜かれ、被害者の声も聞かれます。のみならず、地獄に落ちる悪者どもからの非難や告発さえも聞かれるでしょう。これが怖いと、私は考えます。自分が地獄に落とされるのですから、残される者に不満もあり、批判や非難、大小の隠れた悪事を声大にして言い立て、それを裁かない基督を不正と糾弾し、翻って自己の有罪を不当判決と申立てるでしょう。悪者共も必死ですから。

それには膨大な広さの法定が必要となり、莫大な時間が必要となります。それだけの施設や時間をかけるだけの必要が、最後の審判にはあります。「人を完全に裁く」ということは、それだけの負担がかかるのです。考えても見てください。自分一人のために、全地球的規模の法廷を貸切にし、自分の生涯に相当する時間をかけて審議するのです。

地上では考えられないことでした。バレなければ嘘は得です。知らなければ隠れてしたことは得です。最後の審判はズルを許さない審判です。なにしろ、時間と空間の制限のなくなった神の世界での審判ですから、自分一人の審判に、すべての人が参加し、聞かれたくなく、見られたくない行為も、すべて白日の下に置かれるのです。

無神論者・唯物論者なら、「死んだら終わり」でしょう。それなら生きていく間に、好き勝手に、やった者勝ちです。人生の意味も希薄ですから、専ら金銭が人生の価値になり、金銭に執着し、金銭に仕える金銭崇拝者とならざるをえません。しかし、金銭崇拝者の末路は全く惨めです。何の見返りもなく、無に帰するだけです。

II 好機と悪機

基督の裁きは、その意味で、人生の総決算です。

昨年来、コロナ禍で経営不振に陥り、廃業・倒産する企業が多発。企業経営に波があるのは当然で、1年・2年の資金措置は当然。それを怠る「今だけ経営」は経営とは言えません。

万事に好機も悪機もあります。神は良し悪し全てを支配。良い事だけを「神の恵み」と喜ぶのは信仰ではありません。好機も悪機も、神が私のために定め、与えられた機会。地上の人生は、天国で神に仕えるための教育・訓練・試験です。

「譴責せよ。叱責せよ。召喚せよ。」。罪科をとがめ、責めを質し、裁きの座に呼び出すことです。他人の譴責・叱責・召喚と聞こえるが、自分自身を譴責し、叱責し、召喚せよの主張。「御言葉を布達せよ」も、単に「御言葉を伝えなさい」の意味ではなく、「判決を言い渡せ」という意味でしょう。そう解してこそ、「神と基督との前で、その顕現とその王国にかけて誓って宣告する」と言う理由が見えてきます。

III 不屈の教育

最後に「不屈の教育」です。

譴責せよ・叱責せよ・召喚せよを、一切の譲歩なく、完全に実行せよということ。例外規定を作り出し、特例措置を講じること、中途半端な実行や名目上の実行を許さないのです。

しかし、第二に、これを教育的に実行するようと言うのです。自分に對して教育的というのが理解困難かもしれませんが。基督者は、第一に、基督に献身し、基督のものであり、第二に、基督の体の細胞です。基督の体の細胞のDNAの働きでしょう。

世界の終末が目前に迫っています。予兆を見て、秘されたその日その時を想起しながら生き、歩むこと、つまり現在を終末とみなして歩むこと、それが基督者の生き方でしょう。